取扱いの趣旨

当該医薬品は副作用の観察が必要であり、1回の処方量が概ね2g、通常1日3回とした場合、1か月分の投与量が妥当と考えられることから、1回の処方につき180gを超える算定は、原則として認められない。

DX審査支払機構が公表している取扱いの全文

【投薬】　《令和7年8月29日》

659　大腸菌死菌浮遊液　ヒドロコルチゾンの投与量について

○　取扱い

大腸菌死菌浮遊液　ヒドロコルチゾン（強力ポステリザン（軟膏）等）の１回の処方量180gを超える算定は、原則として認められない。

○　取扱いを作成した根拠等

大腸菌死菌浮遊液　ヒドロコルチゾン（強力ポステリザン（軟膏）等）については、添付文書の重要な基本的注意に、「長期連用により、全身投与の場合と同様な症状があらわれることがあるので、長期連用は避けること。」と示されている。このため、副作用の観察が必要であることから、１回の処方量（概ね２g、通常１日１～３回）としては、概ね１か月分の投与量が妥当と考える。

以上のことから、強力ポステリザン（軟膏）の１回の処方量180gを超える算定は、原則として認められないと判断した。

グラフの見方

1　棒グラフ(該当レセプトの審査結果)
　当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2　折れ線グラフ
　取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】審査の結果

査定	返戻	：取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	：検証が必要

審査結果の概要

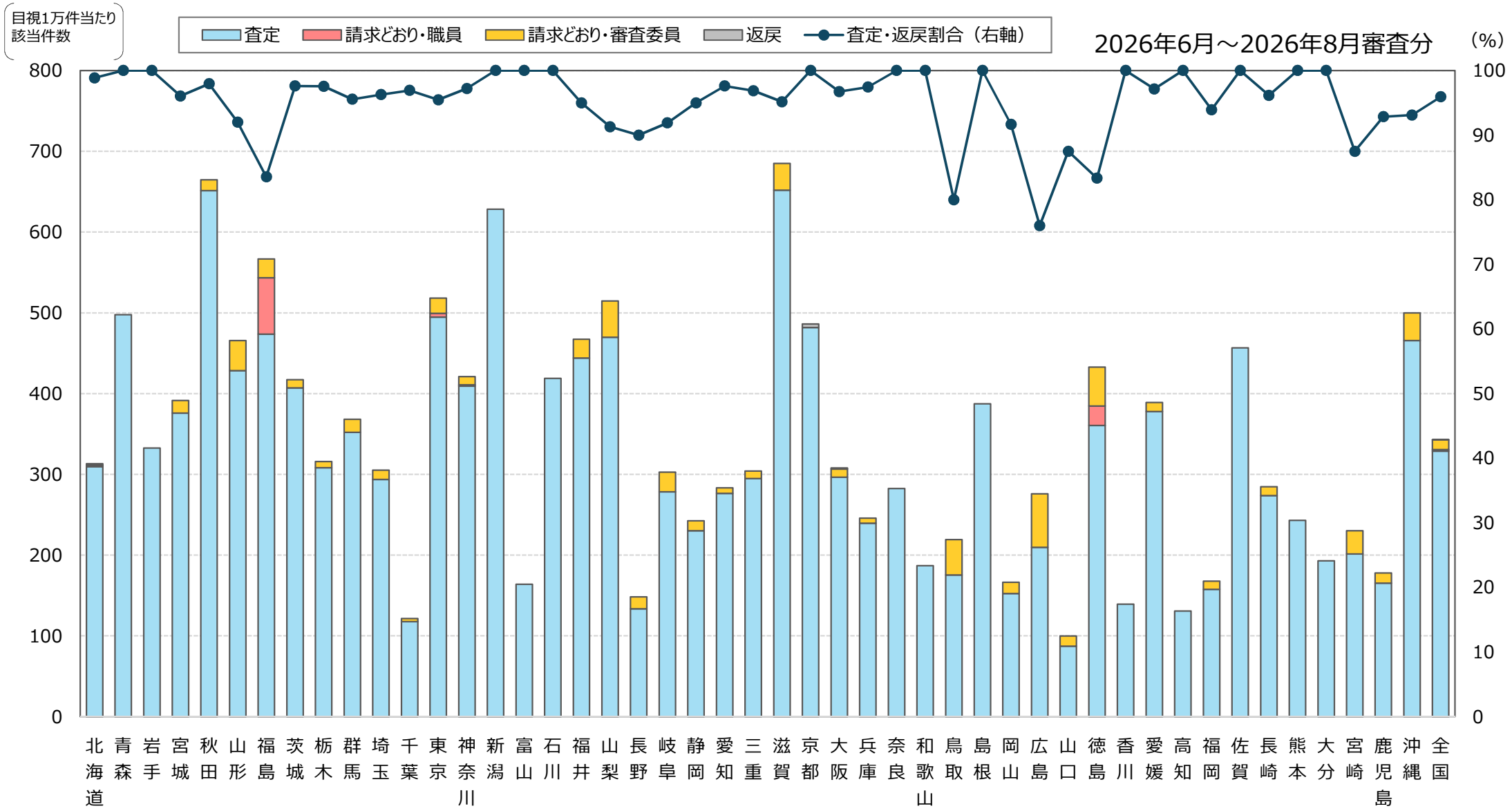
- 全国の査定・返戻割合　95.93%
- 検証対象都道府県　8

検証観点	都道府県	備考
査定・返戻割合が低い	広島、鳥取、徳島、福島、山口、宮崎、長野、東京	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	福島、徳島、東京	対象１万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	広島、徳島、鳥取、宮崎、福島、東京、長野、山口	〃

該当件数（全国）	【条件】	3,289件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	3,155件
検証を必要とする審査	請求どおり	134件

一般659　大腸菌死菌浮遊液・ヒドロコルチゾン(強力ポステリザン(軟膏)等)の使用量の取扱い

【認めない事例】



	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	全国
該当件数	176	43	34	76	49	25	73	84	41	45	161	65	774	252	73	11	33	20	23	20	37	60	167	32	62	108	245	78	23	12	5	16	24	50	8	18	10	35	8	66	19	26	26	17	16	14	29	3,289
請求どおり件数	2	0	0	3	1	2	12	2	1	2	6	2	35	7	0	0	0	1	2	2	3	3	4	1	3	0	8	2	0	0	1	0	2	12	1	3	0	1	0	4	0	1	0	0	2	1	2	134

【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数